

ぼくが生きてる、 ふたつの世界

伝えられない想いが
あふれます。

監督: 呉美保 主演: 吉沢亮 脚本: 港岳彦

忍足亜希子 今井彰人 ユースケ・サンタマリア 烏丸せつこ でんでん

原扶貴子 山本浩司 河合祐三子 長井恵里

原作: 五十嵐大「ぼくが生きてる、ふたつの世界」(幻冬舎刊) 企画・プロデュース: 山国秀幸

製作: 「ぼくが生きてる、ふたつの世界」製作委員会(ワンダーラストリー/博報堂DYメディアパートナーズ/ビクター/東宝/東映/角川/ポニーキャニオン/アスキー/アスキー・コミュニケーションズ/アイビー/アイ/アムス/河北新報社/東日本放送/シネマシティ)

助成: 文化庁文化庁文化芸術振興費補助金(映画創造活動支援事業) 独立行政法人日本芸術文化振興会

©五十嵐大/幻冬舎 ©2024「ぼくが生きてる、ふたつの世界」製作委員会 配給: キヤガ GAGA gaga.ne.jp/FutatsunoSekai/

母に背を向け、故郷を離れたぼく――。

繊細に紡がれる、きこえない母ときこえる息子、そしてあなたの物語。

GAGA
GENDA GROUP



親子の物語が、そしてひとりのコーダの心の軌跡が、点描のように紡がれていく——。監督は、本作が9年ぶりの長編作品となる、『そのみにて光輝く』『きみはいい子』の呉美保作家・五十嵐大氏の自伝的エッセイを原作に、脚本は『正欲』の港岳彦。吉沢亮が、「きこえる世界」と「きこえない世界」を行き来しながら生きる主人公を体現、自身の居場所を見出していく若者の心を繊細に演じた。母・明子役には、ろう者俳優として活躍する忍足亜希子。

やがて母への想いが観る者の胸にも静かに温かく満ちていく、心に響く映画が誕生した。

※コーダ、きこえない、またはきこえない親を持つ聴者の子供

母と息子、切なくも心に響く家族の物語

Story

宮城県の小さな港町、五十嵐家に男の子が生まれた。祖父母、両親は、「大」と名付けて誕生を喜ぶ。ほかの家庭と少しだけ違っていたのは、両親の耳がきこえないこと。幼い大に

とっては、大好きな母の“通訳”をすることも“ふつう”の楽しい日常だった。しかし次第に、周りから特別視されることに戸惑い、苛立ち、母の明るささえ疎ましくなる。心を持って余したまま20歳になり、逃げるように東京へ旅立つ大だったが……。



《上映意義》上映会を通して、言語としての手話の認知が高まり、障がいによる差別や偏見のない社会の構築を目指します。

5月31日(土) クローバーホール(春日市原町 3-1-7 クローバープラザ内)

上映時間 ①10時30分～12時20分/②12時40分～14時10分/③14時30分～16時20分

入場料 前売券 一般(大学生以上) 1200円(当日券1500円)

小中高生 800円(前売券なし、当日券のみ)

※バリアフリー対応 日本語字幕版、音声ガイド付き上映

◇主催 「ぼくが活着ているふたつの世界」福岡上映をすすめる会
福岡聴覚障害者団体連合会・福岡県手話の会連合会

◇事務局 九州共同映画社
TEL092-741-7112 fax092-771-7422 ・ Mail eiga@kyusyukodo.co.jp